

秦野市青少年指導員だより

発行 秦野市青少年指導員連絡協議会

編集 秦野市青少年指導員連絡協議会広報委員会

第50号



退所式でのみんな 明るく顔をあげて、前を向いている

秦野市・諏訪市交流キャンプ

子ども達と一緒に行ってきました

交流キャンプって

一九八四年十月、秦野市と諏訪市の国内姉妹都市が締結されました。その二ヶ月前、八月に秦野市で第一回の子どもの交流キャンプが始められました。

それから毎年開催され、三十六回目の今年は、七月十三日(土) 十四日(日)に諏訪市で行われました。

両市の小・中学生の交流を通じて友情と連帯を深め、自分の役割や連帯感などの社会性の育成を目的として、市のこども育成課が、子ども会育成連絡協議会(子連)と青少年指導員連絡協議会(青指連)に協力を依頼して実施しています。

今年は諏訪市が招く形なので、秦野市からの引率は子ども育成課職員2名、子連2名(会長と大学生のジュニアリーダー)、青指連3名(会長他2名)の7名。

秦野からの参加者は、小五13人、小六16人、中一1人で、小学生は市内11校から集まり、男女比は男子10人、女子20人。
諏訪市は中一1人、中二2人、中三4人、小六4人、小五4人の15人。男子12人、女子3人でした。



諏訪の子たちのアーチをくぐって

訪れたのは諏訪市に隣接する高遠町の国立信州高遠青少年自然の家。

山の中の広い敷地に、屋内集会場6、宿泊棟10、屋外広場5、野外炊飯棟6に加え、天文台まであるという、さすが国立という環境に迎えられ子ども達は伸び伸びと過ごしていました。

宿泊棟は大きかった



荷物をかついで
宿泊棟へ。
大きな建物。前室
も広間も、ベラン
ダも。二段ベッド
が四つ。
さあ、次は。

開会式後はアイスブレイク



班ごとに輪になっ
て自己紹介やゲー
ムなど。
緊張感をほぐして
いきます。

いいですね。
仲良くなるのに
時間はかかりま
せん。



場内のオリエンテーリング

広い場内を、番号を
探して歩き回る。
「ここでいいのか」、
「答えは何だろう」
みんなで協力し、助
けあってやりぬきま
した。途中で迷った
のはナイショ！



ファイヤーのダンス練習



野外炊飯



お好み焼きを作ります。「ガンバロー」
火の加減や味付けに苦労したようです。



キャンプファイヤー



キャンパーの熱
気で雨もやみ、
「火の神」から
の炎で点火。
あっというまに
大きな火に。

マイムマイムを
はじめ、練習し
た曲で歌い踊り、
このまま夜明け
までの勢い。
若さは楽しい。



大活躍だった諏訪のジュニアリーダー達をは
じめ、スタッフのみんなに感謝。



諏訪大社

参詣

御柱祭で有名な
諏訪大社上社にも
立ち寄りました。



諏訪湖

遊覧

きれいになりつ
つある諏訪湖を
回遊。震生湖を
思ったかな。

解散・帰途



カラー団扇にそれぞれの思
いを書いて交換。バスの中も
カラフルに。



みんなでそばを打って昼食

昼食はそば。でも、粉から自分たちで。
こね、のし、切り、ゆで。
自分たちみんなで作るキャンプだから
最後の食事自分たちで。
みんな、美味しそうに。



白の上で杵を一生懸命回す
と焦げ臭い煙が立ってきます。
さらになんばると臼から黒い



「古代の火起こし体験」は、
大根鶴巻地区による提供です。
古代？ そう、弥生時代！
地区の指導員に、自作の「舞
切り式発火器」を二十組ほど
お持ちの方がいらっしゃるの
でそれを使わせてもらい、「ヒ
トは火を使うことで人になっ
た」のですから、サイエンス
フェスティバルにもうつつつ
けの企画という訳です。

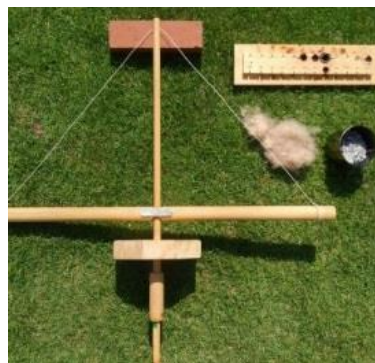
火起こし体験

サイエンスフェスティバルとこども館まつり
寒い二月には、県が主催する「科学のお祭り」に併せて
開催される「ほだのこども館まつり」に協力しました。

「走って来ーい」。手に持
った味噌こし器からモクモク
と白い煙が。そして、ポツと
音がして、大きな炎が。

上下運動を回転運動にする
のにはすぐ慣れますが、段々
重くなるので、小さい子には
指導員や父母がお手伝い。大
体父母が夢中になってきます。
「お父さん。夢中になりすぎ
ないで！」。

火種が出来たら回すのをや
め、吹き飛ばさないようにそ
ーっと吹きながら大きくし、
準備してある細かくちぎった
新聞紙を入れた味噌こし器に
落とします。



木屑が出てきます。さらに回
すと赤い火種が。

電化が進み、マッチもそれない子どもが、火を持つてい入る！ 嬉しそうですよ。



並んで待つてもらおう状態になるので、併せてブルーシートや牛乳パックフリスビーを作ったりもしています。

忙しい！

指導員のうれしい悲鳴です。

大型紙芝居上演

秦野市青少年指導員の文化伝承委員会には「影絵」と「大型紙芝居」の二サークルがあり、影絵サークルは「秦野にまつわる民話や定番の昔話」などを、いろいろなイベントで上演しています。

その中に、青少年指導員OBの方が組織するソニア会から譲り受けた作品も多くあり、全部で十数点のお話を所

有していますが、かなりの年代物もあり、絵の修復や台本の見直しも大切な仕事です。上演に当たっては、子ども達の年齢や会場を考慮しての作品選びと練習を行い本番に臨みますが、大きな絵の迫力と登場人物になりきった語り

に観客は引き込まれます。

「サイエンスフェスティバル秦野大会・はだのこども館まつり」では、数年前からこども館利用団体の演技発表の後に、大型紙芝居の上演を行うようになりました。



初年度は「秦野を知ってもらおう」と民話作品の上演からでしたが、観客に低学年の児童や就学前のお子さんを連れた方が多いことが判り、いまは楽しく解かりやすい昔話を中心に演じています。

客席には、お孫さんの肩を抱くようにしながら真剣に見入ってくださるご高齢の方もおられ、身の引き締まる思いを抱きつつ絵札をめくっています。

昔遊び

「昔遊び」とは、大型紙芝居の終了後、観客用の椅子を片付けた急ごしらえの空間で、文字通り昔ながらの遊びを子ども達に体験してもらおうという企画です。

とはいえ、青少年指導員が所有する「ベーゴマ、けん玉、独楽、メンコ、おはじき、お



手玉」といつた昔懐かしい手具を目の前にして、子ども達が見せるのは少し困ったような戸惑いの表情です。

そこで昔取った杵柄と、青少年指導員の登場となるわけですが、実は会場のそこかしこで、目を輝かせるようにして子ども達の手許に手を添え、見本をお見せになるお父さまお母さま方がいられるのです。

思いがけない形で出現した、世代間交流の場といたら良いのでしょうか。



神奈川県青少年指導員大会

第五十二回神奈川県青少年指導員大会が、十一月九日(土)に「青少年と地域、未来を共に！」をテーマに、横浜市の県立青少年センターホールにて開催されました。



南地区の皆さんと

また当日、長きにわたり青少年指導員として尽力なされた功績を讃えられ、前田康順氏(南地区・五期十年・現南地区長)が優良指導員表彰を受賞されました。おめでとございます。

編集後記

秦野市青少年指導員だより第五十号をお届けします。

私たち青少年指導員は、これからも努力してまいります。変わらぬご声援を。

《王八船の乗員》

- ・竹川伊佐子(南)委員長
- ・吉田トシ子(西・上)副委員長
- ・磯谷 誠(本部)
- ・多田 智(本町)
- ・渡邊 折幹(本町)
- ・細越 徹哉(南)
- ・堂苗 輝美(南)
- ・坪井 正晴(東)
- ・久保 光弘(東)
- ・山口 重春(北)
- ・山口 友一(北)
- ・堀尾 吉晴(大根・鶴巻)
- ・田方 淳一(大根・鶴巻)
- ・田方 明子(大根・鶴巻)
- ・宮永 敏明(西・上)
- ・川口 英一(西・上)